

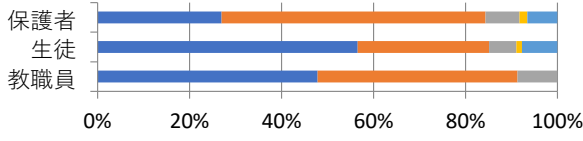
令和4年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にすゝ心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重

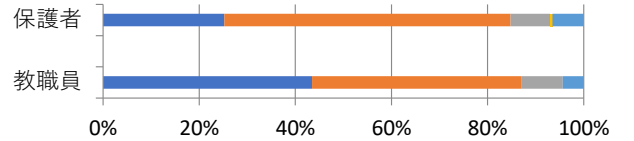
学校は、一人一人の子どもを大切にすゝ指導や対応ができていますか。



児童と教職員の評価は昨年度より上がっているが、保護者と児童では「そう思わない」の回答もある。引き続き「先生と話そうタイム」の活用や個に応じた指導・支援、家庭との連携も密に取りながら児童理解に努め、細やかな対応をして行く必要があると考えられる。

2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

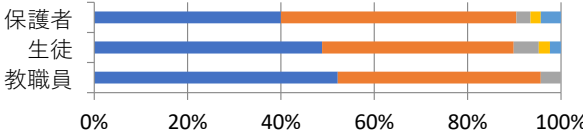


昨年度に比べると「そう思う・どちらかといえばそう思う」が、保護者・教職員ともに少し下がっている。また「わからない」の回答が、保護者・教職員ともに増えている。道徳の時間はもとより教科等と関連させた道徳教育の充実と、保護者へ向けての通信等を使つての啓発活動の必要性を感じる。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上

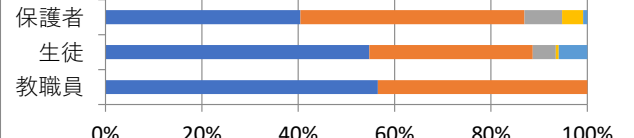
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



保護者・生徒・教職員ともに「そう思う・どちらかといえばそう思う」が9割を超えており、学習に対する意欲は全体的に見ると高いと言える。昨年度と比較しても「そう思う」と回答した割合が増えている。授業や学習評価の充実を図り、学習意欲の向上に、より一層努めていきたい。

4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

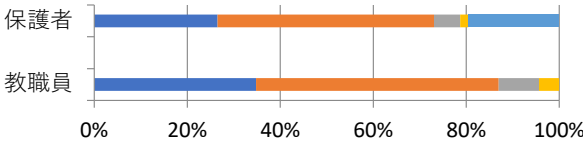


タブレットの活用はどの学年でも進んでおり、児童の活用能力も向上している。一方で、家庭で使い過ぎる児童や、情報モラル教育が進んでいない実態もあり、職員の共通理解を高めたい。

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制

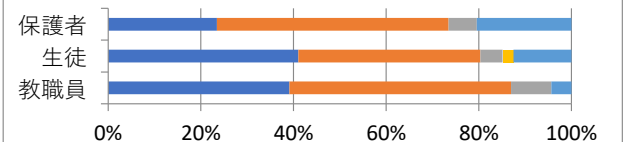
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



昨年度と比較して「どちらかというところ思わない・そう思わない」の割合が少し増えている。校内支援委員会を中心に支援体制の充実、共通理解を図っていくとともに、保護者に対しては連携や発信の機会を増やしていく必要がある。

6 共生社会を担う人材の育成

学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。



交流及び共同学習について、保護者に学校の様子が上手く伝えられていないように思う。授業参観や学年活動などで保護者への啓発を図ってきたい。

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進	
7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
年間計画に基づき、学校全体で安全教育を行っている。避難訓練は、防災、地震、不審者対応等で行い、子ども達の意識の高まりは見られる。コロナ禍ということで、引き渡し訓練が昨年に引き続き行うことができず、保護者からの回答に表れたと認識している。今年度は、避難訓練の際消防隊員を招き消火器の使い方などを学んだ。命を守るために臨機応変に対応できる子どもの育成に努めている。	些細なことでも家庭に電話連絡や連絡帳のやり取りをしながら教育活動を進めているが、保護者と職員の認識の差があることを受け止め、さらに一層丁寧な対応を心がけていく。

⑤ 本校の教育	
9 あいさつの習慣づくり	10 規則の遵守
子どもは、笑顔で気持ちのよいあいさつができていますか。	子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
あいさつの習慣について意識の差があるが、生活委員会を中心にあいさつ運動や校内放送での呼びかけ等を取り組み、あいさつへの意識が高まってきた。しかし、個人差が大きいという実態もあるため、取り組みを継続していくことも大事にしていきたい。	きまりやマナーの遵守について意識の差があるが、何のためにきまりがあるのか、どのようなきまりが必要かなどの視点で校則の見直しの取り組みを進めていきたい。まずは、服装について低・中・高それぞれの発達段階に合わせながら全校で考えていく。

⑤ 本校の教育について	
11 体力づくりの推進	
子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。	
<p>保護者 生徒 教職員</p> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	
学校では朝や昼休みに元気よく外に出て活動する意欲的な姿が見られる。一方で、体力テストの結果から様々な運動能力における個人差が大きいことが本校の課題として挙げられる。今後は、体力向上につながる取り組みを積極的に行っていききたい。☑	

来年度の具体的な取組について
<p>○心豊かな子どもを育むために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年に1度の道徳の公開授業（保護者に対して）を行う。 ・学期に1回「先生と話そうタイム」を実施し、一人一人の児童理解を深める。 <p>○主体的に学ぶ子どもを育むために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT器機の効果的な活用を模索しながら、授業UDの視点に立った授業づくりに努める。 ・朝の学びタイムの充実、タブレットのドリルパークの積極的な活用、ドリル学習や家庭学習で学力向上を図る。 <p>○たくましく生き抜く子どもを育むために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画的なパワーアップタイムの実施や、体育委員会のイベント、日常の体育での体力向上を意識した取り組み（サーキットトレーニング等）を行っていく。 ・「さんさん生活週間」等、定期的に児童の生活について振り返る場を設け、望ましい生活週間への意識を高めさせる。